

# 平成21年度 置戸町行政評価委員会報告

(平成20年度分)

置戸町行政評価委員会

# 置戸町行政評価委員会報告

## はじめに

置戸町にあつては、行政改革大綱に基づく行政改革の取り組みの一つとして、平成16年度に行政評価システムが導入されました。この行政評価は行政の内部評価と町民による外部評価を取り入れることで、評価結果を町民と行政とが共有し、協働のまちづくりを目指すとしてきました。また、第4次置戸町総合計画でも「みんなの手による自立したまちづくり」の実現がうたわれており、現在策定作業中のまちづくり基本条例や平成22年度からの第5次置戸町総合計画にも、これまで以上の住民参加が組み込まれていくことを期待しています

今回の行政評価委員会は、平成20年度に引き続き、委員会として2年目の評価を行いました。昨年の委員会での反省やこれまでの経過を活かしつつ、委員会の設置目的、役割を考えながら各種事務事業について議論を重ねました。

本委員会において開催された7回の会議から、委員会としての意見を以下のとおり取りまとめ報告いたします。

## 委員会の開催状況

平成21年度の外部評価委員会は、下記により7回開催しました。

(1) 第1回委員会【平成21年7月1日】

- ・評価対象事務事業の選定
- ・今後のスケジュールの確認

(2) 第2回委員会【平成21年8月3日】

- ・評価方法の確認
- ・委員会評価及び意見について協議

(3) 第3回委員会【平成21年8月17日】

- ・委員会評価及び意見について協議

- ( 4 ) 第 4 回委員会【平成 2 1 年 9 月 8 日】
  - ・委員会評価及び意見について協議
  
- ( 5 ) 第 5 回委員会【平成 2 1 年 9 月 2 8 日】
  - ・委員会評価及び意見について協議
  
- ( 6 ) 第 6 回委員会【平成 2 1 年 1 0 月 1 5 日】
  - ・委員会評価及び意見について協議
  - ・担当部局との意見交換
  
- ( 7 ) 第 7 回委員会【平成 2 1 年 1 0 月 2 8 日】
  - ・平成 2 1 年度置戸町行政評価委員会報告書について協議

## 評価方法について

今年度の評価対象事務事業の選定にあたっては、昨年度と同様に、委員自らが選定した 2 4 件の事務事業に加えて、町づくり企画課が提案した 7 件の事務事業も評価することとし、合計 3 1 件を選定しました。また、事業を選定する際、過去に評価対象となった事務事業と同じものを可能な限り選ばないよう留意しました。

評価については、平成 2 0 年度の事務事業に対する委員会としての評価を簡潔に記載しました。主管課評価が適正であると判断し、同じ評価となった事務事業については、委員会の参考意見を記載し、主管課評価と異なる評価となった事務事業については、その理由を記載しています。

今年度は、主管課評価と異なる評価となった事務事業について各担当課長とも意見交換を行い、事務事業の理解をより深めた上での評価となるように努めました。

## 評価内容報告

市町村を取り巻く情勢は人口の減少や少子高齢化の進行、地域経済の低迷など非常に厳しい状況に置かれており、また、市町村財政も同様の状況のなかで、置戸町も徹底した行財政改革に取り組んでいることと思います。

今回、31件の事務事業について行政評価を行いました。評価を進めるにあたっては、町民からの視点で行政評価を行うことにより、今住民が必要とするサービスは何か、何を優先的になすべきかなどの視点を大切に、新たな発想による行政運営の一助となればとの想いで評価を行いました。

個々の外部評価結果については、概ね内部評価のとおりであると判断した事務事業が多くを占めました。ただ、評価作業のなかで多くの議論が交わされ、その意見を委員会の参考意見として付記させていただきました。これらの意見が行政内部で議論され、事務事業見直しのきっかけとなり本年度実施の事務事業や平成22年度予算に反映されることを期待しています。

本年度の評価作業を終え、行政評価委員としての任期2年も終了しました。この間の行政評価委員会としての課題も整理することで、次年度以降、行政評価委員会の活動が効率的・効果的な行政運営の推進に役立てばと思います。

以下、行政評価システムへの意見や評価を終えての各委員の感想を含め報告いたします。なお、事務事業ごとの外部評価結果については、「置戸町行政評価委員会外部評価結果（平成20年度分）」に記載のとおりです。

#### 行政評価調書の構成・文章の表現について

- ・2年目の委員会であったので、内容については理解できたが、長い文章で表現されているものには理解しづらいものもある。（2名）
- ・調書は添付資料や説明を受けることで内容は理解できる構成になっているので、表現等については概ね適切である。（6名）
- ・数値で具体的に示されているものは、客観的にイメージや判断ができるのでわかりやすい。

#### 評価対象数、委員会開催回数等について

- ・1件の事務事業評価にかかる時間と、評価作業の内容を考えると適当な件数である。（4名）
- ・短い期間の中で評価作業を行うので、これ以上の開催回数は難しいと考える。7回の委員会は適当な開催回数である。（5名）
- ・評価作業を行う期間が短く、急いで評価を行わなければならなかった。委員会の開

催回数を増やすなど、もう少し時間的な余裕がほしい。

#### 事務事業の選定方法について

- ・行政と町民では事務事業に対する考え方や視点も違ってくるので、今回のように行政側から選んだ事務事業に対する評価はあって良いものと思う。行政側で評価をしてもらいたい事務事業があれば、さらに件数を増やしてもよいのではないか。(3名)
- ・選定対象となる事務事業の数がとても多いので、その中から選ぶのが難しい。
- ・当初選定した34件の中には、内容を理解していくと評価する必要のないものも見受けられた。このような事務事業をなるべく選定しないようにするため、選定の前に概要等の説明があった方がよいのではないか。(2名)

#### 評価作業を実施して

- ・事業の目的がもう少し計数的な部分を持っていると評価しやすい。
- ・評価委員7名で共通の結論を出すことは、お互いの遠慮や気遣い等も多少影響するので、工夫が必要ではないか。
- ・行政評価がこれからの置戸町の未来にすこしでも役立てば良い。評価方法もまだ改善の余地はあるのかもしれないが、この評価を通して町民と行政の方向が近づけば良い。
- ・委員会の内容が非常に濃いものであった。評価している我々の責任も非常に重いものだと感じた。
- ・欠席する委員がいた場合、少人数での評価になってしまうため、7名の委員数は少ないのではないか。
- ・行政評価は過年度の事務事業に対する評価であり、評価する事務事業の枠を越えざるを得ない評価作業に限界を感じた。
- ・評価の基準が、公益的な基準で考えなければならない点が多々あることに戸惑いを感じた。
- ・置戸町がどのようになればより住みよい町となるか、他の委員の意見等を聞いて色々と考えさせられた。委員として参加したことが、町民の一人として「まちづくり」に関わる第一歩となった。

## 置戸町行政評価委員会外部評価結果（平成20年度分）

☑・・・委員が選定したもの

☑・・・町づくり企画課が選定したもの

事務事業名	【地方バス路線運行事業補助金】町づくり企画課 ☑
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) バスダイヤの見直しなどにより、市町村負担の軽減が図られていると認められる。
参考意見	唯一の公共交通手段であるから、交通弱者に対する行政支援は必要である。今後、人口減により利用者も減少し、市町村負担が増加することが予想されるが、町としての負担は増えても補助は続けていくべきである。 また、通学生が最大の利用者であることから、通学生への通学定期代に対する補助について、二人以上の通学生がいる場合には補助率を見直すなどの検討も必要と考える。
事務事業名	【職員の健康管理】総務課 ☑
評価	「事業内容・予算を拡大して継続」 メンタルヘルスへの対応が不十分である。
理由	行政も民間も個々の仕事量や精神的な負担は増えてきている。民間にあっても、労働基準監督署より身体的・精神的な問題を早期に発見できるよう事業者に強く求められてきている現状がある。このような状況のなか、行政が手本となり、メンタルヘルスとそのケアを進めていくべきではないか。

事務事業名	【職員研修】総務課 委
評価	「事業内容・予算を拡大して継続」 研修機会や予算が少ない。
理由	<p>今後は、職員数も減り、限られた人数の中で行政運営をしていかなければならない。しかし現状では研修の数が少なく、職員研修に関する予算が少ない。財政状況が厳しいなか、行政に求められるものは多い。「まちづくりは人づくり」という言葉は職員にも言えることである。</p> <p>先進地の視察など研修に参加する機会を増やし、また、職員自らが学ばなければならないという職場環境をつくることにも力を入れてほしい。そのようなことから、事業内容・予算を拡大して継続すべき。</p>

事務事業名	【町有施設の維持管理（コミュニティホール）】総務課 委
評価	「その他（経費節減の工夫が必要）」 管理経費の節約が必要。燃料費の経費が大きい。
理由	<p>公共施設としての利用率が高く、利用者が自由に出入りできる施設であることから経費の削減は難しいと思われるが、2つある自動ドアのうち公民館側の自動ドアの自動開閉を止めて暖房費を節約するなどの工夫はできないだろうか。</p>

事務事業名	【じん芥処理事業（指定ごみ袋）】町民生活課 企
評価	「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり） 有料ごみ袋等の導入により、町民にごみの減量と分別の意識が定着した効果は大きい。
参考意見	<p>分別しやすいごみは分別が浸透しているが、分別されていないごみを見かけることもある。また、人口は減ってきているのに、ごみの量は減っていない。</p> <p>分別する際、燃やすごみにすると面倒ではないかもしれないが、リサイクル可能なものは、リサイクルするという主旨を忘れず、ごみ全体の減量化をさらに進めることを町民にPRしてほしい。</p>

事務事業名	【広報広聴】町民生活課 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 町民に情報を伝える広報誌発行と意見・要望把握のための町長への手紙やメール、地域懇談会の開催はまちづくりの重要な手段と認められる。
参考意見	置戸町の場合、町民と行政との距離が近く、声が届きやすい環境があるため、町長への手紙や目安箱の活用が少ないのかもしれない。ただ、地域懇談会とは違い、みんなの前では言いにくい内容や少数派の意見を聞くためには有効な手段であるので、もっと活用が図られるよう町民にPRをすべきではないか。 また、地域懇談会についても、年一回だけの開催ではなく、回数を増やして町民の声を聞く機会を増やしてもよいのではないか。

事務事業名	【置戸町ふるさと運動推進協議会交付金】町民生活課 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 置戸町出身者や支援者とのつながりを保つため、ふるさと通信やカレンダーの発行、おけと会との連携は必要である。
参考意見	全国にふるさと会員がいることで、置戸町のPRのために協力を得られる可能性がある。ふるさと会員が置戸をPRしてくれる新たなシステムを考えてはどうか。 若い年代の会員を増やすために、町のホームページ上で「ところ川」を掲載し、会員の募集を行ってはどうか。

事務事業名	【農業担い手育成支援事業(交付金)】産業振興課 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 国の事業に合わせた支援策として成果が期待される。
参考意見	本町の基幹産業は農業である。若い農業の担い手が町に残り、活気あるまちを築くためにも、社会教育や農業サイドなどで、町独自の担い手対策を実施してもよいのではないか。

事務事業名	【常盤地区飲雑用水施設利用組合補助金】産業振興課 企 【川南地区営農飲雑用水施設利用組合補助金】産業振興課 企
評 価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 営農用水施設維持管理のため必要な補助と認められる。
参考意見	施設が古くなりつつあることは理解できるが、すぐに新しい施設を作るといふことにはならない。施設の状況を見ながら、修理するなどして大切に使いながら維持すべきである。

事務事業名	【土づくり対策推進事業補助金】産業振興課 委
評 価	「事業内容・予算を拡大し継続」 農地における土づくりの重要性の割には補助金額が少ない。
理 由	緑肥や堆肥による土づくりは農地の地力回復にたいへん効果があり、天候の悪い年には特に効果が現れる。 経営者の考え方により、土づくりの方法は異なるが、肥料高騰もあり、より多くの農家に利用してもらえよう補助金を増額し、事業の普及・拡大を図っていくべきである。また、堆肥センターの活用や土壌診断についても同様に積極的な補助が必要と考える。

事務事業名	【置戸町境野交流センター管理】産業振興課 企
評 価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 農業経営の変化から農業実習生等を取り巻く環境も変わり、利用者が減少してきている現状は理解できる。
参考意見	施設の地理的条件により、利用できる人が限られ、補助事業により建てられた施設のため利用目的が決まっているといった条件はあるが、部屋が空いたままの現状はせっかくの施設が無駄となってしまう。入居制限を緩和して利用させてはどうか。

事務事業名	【置戸町クリーン農業推進協議会補助金】産業振興課 委
評価	「内容を変更し継続」 クリーン農業を推進する目的は今の社会情勢に合ったものと理解するが、補助金の使い方に片寄りがある。
理由	事業内容のほとんどがヤーコンの宣伝用として版代とコピー用紙代に使われている。クリーン農業の推進策としては不十分である。 置戸の農業は気候や地理的条件から元々農薬の使用は少なく、殆ど使わない人もいる。イエスクリーン認証取得によるブランド化を目指すよりも、少ない農薬ですむクリーンな環境で作られていることをPRすべきではないか。 また、勉強会の開催や市場の調査にも力を入れるなど、置戸のクリーン農業が目指す方向性を見直しを検討すべきである。

事務事業名	【公社営畜産担い手育成総合整備事業】産業振興課 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価と同じ) 個人では負担が大きすぎてできない事業の展開であり、町としても支援を継続すべきと判断する。
参考意見	草地更新や牛舎の建築などは、個人では自己負担が大きく実施が難しい。国や道の補助を利用し、町としても補助を上乗せして本町の基幹産業を担う畜産農家を支援していくことは大切である。

事務事業名	【森林整備担い手対策推進事業負担金】産業振興課 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 北海道や事業主、町が連携し、林業従事者の就労安定化に寄与している。
参考意見	水源である森林の整備や育成等、森林の持つ様々な機能を維持していくためには、林業従事者の安定的確保が不可欠であり、今後も継続していくべきである。

事務事業名	【絆の森整備事業】産業振興課 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 下刈りなどを行い、森林整備が図られていると認められる。
参考意見	森林の育成状況によって、整備事業を行う面積等は変化することと思うが、全体の面積に対し、事業実施面積や予算が少なくも感じられる。 原木の価格を見極めながら計画的に伐採し、森林整備に対する財源としても良いのではないかと。 町民の森は、環境面の作用も含めた森林の大切さを町民に理解・意識してもらえよう、もっとPRしてはどうか。

事務事業名	【置戸町商工会事業補助金】産業振興課 委
評価	「予算を拡大し継続」(主管課・内部評価のとおり) 商工会会員である小規模事業者の便宜を図るために必要な補助金である。
参考意見	商工会の会員は、規模の小さな商工業者が大部分を占め、それらの会員に対して商工会が経営指導等を行うことは必要なことである。 また、会員の構成は様々な職種からなり、農業に対する補助金のようなまとまった支援策はとりづらく、包括的に支援することができる商工会事業に対して、町は継続的に補助をしていくべきである。 得得商品券により町内での購買を高める試みは、補助金を増やして実施する価値がある。今後、その効果を分析してほしい。

事務事業名	【消費生活】産業振興課 企
評 価	「事業内容・予算を拡大し継続」 情報提供や啓蒙活動、相談業務が十分ではない。
理 由	振り込め詐欺や架空請求などによる被害が頻繁に報道されており、その手段も多様化してきている。被害に遭った後では、その対応にも高度な専門的知識が必要になる。被害に遭う前に、詐欺であると気付くことが重要である。 また、お年寄りなどに潜在した被害もあると考えられ、騙そうとする手口についての情報提供や啓蒙活動に努め、相談業務に対応できる体制を充実させることで、被害の未然防止や早期発見を図るべきと考える。
事務事業名	【置戸町簡易水道事業】施設整備課 委 企
評 価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 古い施設ではあるが、適正な管理に努め、安定した水の供給が図られている。
参考意見	簡易水道事業の一元化が検討されていることについて、一元化されると水道料金の値上げや、事故の際には全町的な断水が心配されるが、水道事業の合理化・効率化が必要なことを踏まえれば理解できる。 また、水源の確保という点で、水源地付近を含めた森林の整備・保全は非常に重要であり、森林環境を守ることも合わせて考えていかなければならない。

事務事業名	【置戸町子どもセンター運営費補助金】地域福祉センター 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 児童の健全な育成のためには必要な補助である。
参考意見	障がい児への対応が今後心配される。現状では保育士の加配や、保健師、教育委員会等との連携により対応はできているが、今後、専門機関による早期の発見や親の障がい児に対する認知の増加により、個別に対応しなければならない児童が増えることが予想される。 障がい児に対しては、早期に適切な対応をすることが重要と言われており、障がい児の入園状況に応じた迅速な対応が求められる。

事務事業名	【児童遊園地】地域福祉センター 委
評価	「その他(配置の見直し)」(内部評価のとおり) 利用状況に合った再編を検討すべきである。
理由	施設の移転にともない、あまり利用されていない遊園地もある。子どもの遊び場を確保することも大事ではあるが、安全確保が前提である。人が集まり、目の届く場所に遊園地を集約するなど再編を検討すべきである。

事務事業名	【置戸赤十字病院医療施設充実事業補助金】地域福祉センター 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価と同じ) 継続的な補助を続けてきたことで、医療施設の確保と充実が図られている。
参考意見	高齢化が進んできた置戸町にとって、赤十字病院の存在が大きな安心感を町民に与えている。今後、町民が安心して生活していくために、病院に対し継続して補助を続けていくべきである。 補助の金額についても、経営状況に応じて増額することも検討して良い。

事務事業名	【成人・老人保健事業（子宮がん検診）】地域福祉センター 委 【成人・老人保健事業（乳がん検診）】地域福祉センター 委
評価	「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり） 早期発見・早期治療のため必要な事業である。
参考意見	検診日が平日であるため、仕事をしている対象者は受診しにくいところがある。休日等に検診を行うなど受診しやすい方法をとって、受診率の向上に努めて欲しい。

事務事業名	【老人福祉施設入所者措置】 地域福祉センター 委
評価	「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり） 高齢化が進むなかで、高齢者の将来にわたる安定的な生活を確保するために必要である。
参考意見	要介護者が増えることによる勤務体制の充実など、現状の変化に合わせた対応を行っていくことで、入所者の生活や介護を要する入所者のための適切な処遇を継続していくべきである。

事務事業名	【置戸高等学校支援対策協議会交付金】学校教育課 委
評価	「予算を拡大し継続」（主管課・内部評価のとおり） 置戸高校存続のため必要な交付金であり、福祉科のPRなどを拡大して継続すべきである。
参考意見	介護職は今後ますます必要となる仕事でありながら、福祉職場の労働環境に対するイメージが悪く、これらの改善がなければ福祉科への入学者も厳しい状況が続くと思われる。 置戸高校の福祉科を存続させていくことは、人口の減少が続く置戸町にとって重要なことである。PRは、様々な方法を模索しながら拡大していくべきである。

事務事業名	【成人祭】社会教育課 委
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 企画から実施まで自主運営により行われる成人祭は、参加者同士のつながりを深め、ふるさとを認識する機会として、大きな価値があるものと認められる。
参考意見	置戸に残っている新成人が少ないため、「はたちの集い」に集まる限られた人員による企画運営が難しくなっている状況は理解するが、この集いの中で作られるつながりは新成人にとって将来の財産となる。 町主催の式典形式で行うより、はたちの集いを社会教育団体等(町民)がサポートすることなどで、可能な限り今までの形に近い方法で行ってほしい。

事務事業名	【郷土資料館管理運営】社会教育課 委
評価	「その他(今後の施設改修、保存管理について検討を要する)」(主管課・内部評価のとおり) 貴重な文化財を保存・有効活用するための体制づくりが必要である。
参考意見	土曜日午後の開館では、郷土資料が町民の目に触れる機会が少ない。保存している資料には資料価値の高いものも多数あるように聞いている。貴重な郷土の文化資料として、保存や展示を充実させるべきではないか。 郷土資料だけの資料館の運営ではなく、秋岡コレクションも含めて資料の収集・保存・展示を検討してはどうか。

事務事業名	【生産技術者育成】森林工芸館 委
評価	「その他（推移を見極めながら再開）」（主管課・内部評価のとおり） 時松塾という手段にこだわらず、他の方法も検討して再開を目指してはどうか。
参考意見	<p>オケクラフトは置戸を代表する顔のひとつであり、この伝統は守っていかなければならない。</p> <p>時松塾による後継者の育成も生産技術者を育成する手段ではあるが、工房を構える生産者の支援に力を入れ、弟子としての受入れ体制など、様々な方法を検討し、技術の継承を考えてはどうか。</p> <p>製品の発注や買取りについても、生産者の状況による段階的な対応を制度化してはどうか。さらに生産者の組合化、商工会への参加を推進する必要があるのではないか。</p>

事務事業名	【共同工房管理】森林工芸館 企
評価	「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり） オケクラフトの技術を伝え、作り手を養成していくためには必要な施設であると認められる。作り手として、しばらくの間訓練をする者がいなくなるのであれば、新しい利用方法も検討し活用していくべきではないか。
参考意見	<p>様々な機械が揃っており、独立前のクラフトマンにとっては訓練に有効な施設である。</p> <p>現在の利用者が独立した場合には、施設利用者がいなくなってしまうことが予想される。専門的な機械など設備が整っていることから、既に独立したクラフトマンの新製品開発、情報交換や技術交流の場として利用するなど、新しい利用方法も検討し、施設を有効に活用すべきではないか。</p>

事務事業名	【どま工房管理】森林工芸館 委
評 価	<p>「事業内容を拡大し継続」(主管課・内部評価のとおり)</p> <p>秋岡コレクションの展示や、ものづくり体験の場所として有効な施設である。</p>
参考意見	<p>最近秋岡コレクション等の常設展示をしている期間が長く、一般の町民にとって、以前のように多目的に使用できる期間が少ない。</p> <p>ものづくりの拠点としてのどま工房の位置付けを明確にすべきではないか。</p> <p>また、職人を目指す日本中の人を対象に、保存している手仕事道具やそのレプリカなどが利用できるなど、展示だけではなく、ものづくりの研修の場として、対象者を広げて利用できることも検討してはどうか。</p>

# 置戸町行政評価委員会委員

委員長 稲葉繁夫

副委員長 堺 信幸

委員 井上幸恵

委員 木村 亜矢子

委員 小田重孝

委員 佐藤年光

委員 星賀 武